

町の漁場環境を守る、

早川漁協の現場

早川町は山だらけ。南アルプスの麓に位置し、町土の約96%を森林が占めている。そして森林とともにあるのは、豊富な水。南アルプスをはじめとする山々は、長い年月をかけて雨や雪解け水をたつぷりと蓄えてきた。それはやがて湧き水となって流れ出し、沢をつくり、早川へと注いでいく。こうした自然の営みの積み重ねによって、美しい渓谷景色が形づくられ、豊かな漁場が育まれてきた。これは、つくろうと思っでできるものではない。かけがえのない早川町の財産だ。

早川の上流へ分け入ると、知る人ぞ知る穴場の渓流スポットがいくつもある。3月15日の漁解禁日には町内外から多くの釣り人が訪れ、漁期を通して何度も足を運ぶ人も少なくない。派手に知られているわけではないが、一度知ると通い続けたくなる。そんな早川町の漁場環境が保たれている背景には、「早川漁業協同組合」（以後、早川漁協）の存在がある。この号では、早川漁協がどのように川を守っているのか、現場作業の様子を中心に伝えていく。（クシダユリ）



早川漁業協同組合とは

漁業協同組合（以後、漁協）と聞くと、海の漁師の組織を思い浮かべる人が多いかもしれない。けれど、川にも漁協がある。早川漁協は、早川とそこにつながる支流一帯の水産資源を守る組織だ。およそ80名の構成員は早川町民で、ふだんから釣りに

親しんでいる人が多い。

早川漁協の仕事はさまざまだ。魚の放流や川の監視、魚の産卵場の造成、遊漁承認証（以後、遊漁券）の販売、河川清掃などを担っている。各河川の水質や水質、魚の状態を調べる調査も大切な仕事だ。また、川の源流域には希少なヤマトイワナ（※1）が生息する所もあり、その保全にも取り組んでいる。

漁期があるが、仕事

はその期間だけではなく、理事や監事を中心に組合の運営や会計管理を行い、総会や理事会も開かれている。2025年には、湯島地内に約2キロメートルのキャッチ&リリース区間（※2）を新設したことで、案内看板の設置や、溪流魚のルアー釣り教室の開催なども行われた。

漁期と年間の流れ

早川とその支流は、いつでも自由に釣りができるわけではない。魚が育ち、次の世代につながついていくために、漁期が定められている。主な魚種であるアマゴ、イワナ、ニジマスなどの漁期は、毎年3月15日から9月30日まで。区域によっては期間が短くなる場所があるなど、細かなルールも設けられている。漁期が始まる頃から、早川漁協の仕事が本格的に動き出す。3月には成魚の放流、5月には稚魚の放流。様子を見ながら、その後も何度か放流は行われる。また、合間に組合員が各々のタイミングで河川に見回りに行き、監視作業もしている。

放流作業の様子

5月のある午前中、早川漁協では町内各地で放流を行った。私は、雨畑地区での作業に同行するため、ヴィーラ雨畑の駐車場へ。早川漁協の組合員が10人ほ



養魚場のトラックが到着した様子（右）
トラックに積まれた生け簀（上）
生け簀から稚魚をパケツに移し出しているところ（左）



ど集まり、賑やかになってきたところで、養魚場のトラックが到着。荷台には、大きな生け簀があり、その中にアマゴの稚魚が入っていた。



早川漁協の漁場の景色



湯島地内のキャッチ & リリース区間に関する案内看板

稚魚は生け簀からバケツに移し出され、水と酸素とともに45リットルほどの袋に分けられ



袋に入れて持ってきた稚魚を川へ放流している様子
(左、左中、左下)



バケツの中の稚魚を袋に入れて(右上・右中)酸素を注入し、袋を閉じている様子(右)



た。そして各メンバーはその袋を複数抱えて、担当する放流場所へと向かっていった。

車で河原近くまで入って放流できる場所もあれば、山道を一時間近く歩き、上流部で放流している箇所もある。稚魚の入った袋は、米袋のように重く、命を預かる緊張感も感じた。加えて、近年は熊の目撃も増えており、遭遇の心配もあった。放流作業の裏には、こうした人の手による苦労があることに、改めて気づかされた。

監視作業の様子

秋のある早朝、早川漁協の副組合長・望月弘さんの監視作業に同行し、保川や滑河内(なめらごうち)周辺などを回った。弘さんは、組合員の中でも「釣りキチ」と呼ばれるほどの釣り好き。その日、軽トラツクの荷台には、釣竿や餌、保冷ボックスがしっかりと積まれていた。「監視作業は、自分が釣りに行く口実でもあるから」と弘さんは笑った。

車で山道を上流の方へ進みながら、いくつか獣よけのゲートを開けていく。見回りに入る前



「おはようございます。釣れました？」



川のそばで車を見つけ釣り人を探す弘さん(上)
釣り人に声をかけている様子(左)



遊漁券を背中にかけている釣り人

自然に声をかけながら、まずチェックするのは遊漁券。多くの釣り人は見える位置に身に付けているため、

目視で確認できる。見当たらない場合は直接聞き、持っていない場合はちゃんと注意をして、その場で券を購入してもらう。見回りの際は、券も持参して販売をしている。「ルールを守って



弘さん(左)とこの日出会った釣り人二人(右)の談笑の様子

人たちの談笑が続いた。見回り中のこうしたやりとりも、きっと釣り人にとっては良いおみやげになるのだろう。放流の時期や場所は、積極的に早川漁協で公開しているわけではないが、弘さんのような監視員に出会った際、聞けば快く教えてくれる。「来てもらった以上、いっぱい釣ってもらいたいさ。良い思いして、また来てもらいたいからね」と、弘さん。その言葉には、川の案内人のような温かい響きがあった。

川を見続けるという仕事

毎年川の様子を見ている組合員たちは、その変化も感じている。

昔は多く釣れた天然の尺ヤマメ(※3)は、今ではほとんど釣れなくなった。水温の上昇や台風の影響で、魚を取り巻く環境は少しずつ変わってきている。

一方、人の手による影響もある。高度経済成長期頃から行われてきた川の砂利採取によって、水中の大きな石や淵が少な

(※1) ヤマトイワナは日本固有のイワナの種類。冷たく澄んだ源流域に生息する。早川の上流域など、条件の整った限られた場所にもみられる希少な存在。

(※2) キャッチ&リリースとは、釣った魚を持ち帰らず、その場で川に戻す釣り方のこと。早川漁協が新たに設定したキャッチ&リリース区間では、魚への負担を減らすため、ルアーなど疑似餌による釣り方のみとし、かえしのない釣り針を使うことが定められている。ルアー釣り教室は区間の新設に合わせて、周知と理解を深める目的で開催された。

(※3) 尺ヤマメとは、体長30センチを超えるヤマメのこと。天然でこの大きさに育つには時間と安定した環境が必要で、川の豊かさを象徴する存在でもある。

早川漁協同組合ウェブサイト
<https://r.goope.jp/hayagyo/>



No.107

January
2026

早川町応援団獲得マガジン

やまだらけ

YAMADARAKE

町の漁場環境を守る、 早川漁協の現場

表紙写真 雨畑地区で放流前の準備の様子

上流研の取り組みを応援頂いています！

地域発展のお手伝い！地域の暮らしを守る！

早邦建設株式会社

【本社】〒409-2732 山梨県南巨摩郡早川町高住 645-27
TEL.0556-45-3000 FAX.0556-45-2288
【生コンクリートブランド】TEL.0556-45-2700
<http://www.soho3000.com/>

毎分 1,630ℓ 湯温 52℃の湯割自噴火温泉では日本唯一を誇る新湯湧出
全てのお風呂、客室風呂、給湯、シャワーに至るまで 源泉掛け流し

全館源泉掛け流しの宿

西山温泉 **慶雲館**

〒409-2702
山梨県南巨摩郡早川町西山温泉
TEL 0556-48-2111
FAX 0556-48-2611 <http://www.kefukan.co.jp>

早川町で感動体験を・・・
南アルプス生態
光源の里温泉 ヘルシー美里
南アルプス邑野鳥公園

ご予約・お問い合わせ
TEL/0556-48-2621
<http://www.hayakawa-eco.com/hmisato/>

これで安心！自然観察
ご近所のキケン動植物図鑑

谷本雄治 著 一日一冊 マンガイラスト
貝津好孝、三田村敏正 監修

定価5,720円(税込)/29×23cm/151頁
ISBN978-4-338-08179-5

ハチやヘビから意外に知らない有毒植物まで、104の生物を収録！
対処法もひと目で分かるイラストに！ 外来種もぎっちり紹介。

〒162-0066 東京都新宿区市谷台町4-15
小峰書店 TEL 03-3357-3521 FAX 03-3357-1027

やまだらけ 早川町特産品
早川町観光PR

早川町の魅力を東京で発信します！
～お気軽にお問い合わせください～
ANNIVERSARY CONCIERGE
アニバーサリーコンシェルジュ
TEL : 03-5823-4043

南アルプス街道の交通安全と
清流早川の自然を守ることを永遠のテーマに
地域社会の発展に貢献する事を目指します。

早川砂利協同組合

山梨県南巨摩郡早川町小縄 26
電話 0556-45-2450

広告主募集

上流研では、本スペースまたは裏表紙に広告主を募集しています。

やまだらけ発行	広告料金	大きさ	データ形式
年4回(予定)	年間22,000円 (出版社さま年間33,000円)	幅63mm、高さ41mm	aiデータ(アウトラインしたもの) またはpdfデータ

ご関心のある方は下記問い合わせ先(NPO法人日本上流文化圏研究所)までお気軽にご連絡ください

電話:0556-45-2160 Eメール:info@joryuken.net

『やまだらけ』バックナンバーはこちら▶
<https://fm-hayakawa.com/fm/yamadarake>



山を覗けば宝の山

やまだらけ
YAMADARAKE

編集後記

監視作業の取材に同行した際、弘さんが「一匹は釣らせてあげたい」と私の分の釣り竿も用意して挑戦させてくださったのですが、残念ながら釣れず…(苦笑)。それでも、川の音や木漏れ日、山の奥の景色を味わえた時間は、忘れられない思い出となりました。

発行元 / NPO法人日本上流文化圏研究所
住所 / 山梨県南巨摩郡早川町葉袋430
Tel.0556-45-2160
Fax.0556-45-2268
ウェブサイト
<https://joryuken.jimdo.com/>